



先進地に学ぶ

総務文教委員会

平成20年6月25日～27日

山形県天童市

(人口 62,879人)

山形県南陽市

(人口 34,873人)

天童市の「生涯学習による地域づくり」は市民が従来の行政依存から脱却するため、平成9年から地域づくり委員会を作り「地域で出来ることは地域で」をスローガンに地域課題を掘り起こし、自らの役割と市の役割に、両者が連携をとりながら解決して更なる課題

設定へ向う展開をしている。「市民が主役のまちづくり」を実行する体制は、地方教育の要である社会教育や公民館活動、校区公民館単位で行う地域づくりと、大きな3つの事業を「生涯学習」という市民が直接かかわる事業で括ってある。

市民が理解、納得して全員が参加しているその体制は見事なものである。我われも大いに参考にしたい。

南陽市の「日本一安全で安心な潤いのある街づくり運動」は暴力団の発砲事件に端を発した。総合計画で市民に危害を及ぼす犯罪や事故のないまちを掲げ、安全で快適な人にやさしいまちづくりを柱に織り込み、平成15年度に安全安心の都市宣言をして条例も作った。

市民主体の参加で大きな広がりを見せ、それを支える地域公民館事業があり、青色回転灯搭載車の活用や

子供見守り隊、ペットの糞対策など、市民が発想した地域活動が行われていた。

山形県山形市
(人口 255,266人)
山形県鶴岡市
(人口 142,042人)

厚生委員会

平成20年6月30日～7月2日

山形県山形市

(人口 255,266人)

山形県鶴岡市

(人口 142,042人)

山形県山形市の「ごみ減量等に関する各種取組み」と山形県鶴岡市の「高齢者福祉センターおおよま」について視察を行った。

山形市の「ごみ減量・もつたいねット山形」は平成18年12月に設立。市民・事業者・行政が連携・協力し、ごみ減量や資源の再利用を推進し、循環型社会の形成を目指している。今年3月に「布類及び紙類の資源化促進に向けた取組みに関する協定」を締結した。5月には「レジ袋の削減に向けた取組みに関する協定」を

締結し、7月1日からスパー7社の31店舗でレジ袋無料配布の中止を始めている。三者が一緒に考え、協働して活動するところは大きいに参考にできた。

鶴岡市の「おおよま」は、特別養護老人ホーム定員124人、短期入所センター定員26人の計150名定員の施設である。すべての部屋が個室で10から12室ごとに13のユニットと呼ばれる区割りで構成されている。

また、大山児童館が併設され、学童保育所と地域の子供たちが自由に利用できる児童館事業を実施。高齢者の個室という行き届いた施設とケアが特徴であるが、児童施設との併設を活かした高齢者と児童の様々な交流の様子が印象深かった。

建設経済委員会

平成20年7月2日～4日

長野県松本市

(人口 228,424人)

長野県小諸市

(人口 44,322人)

松本市では市民農園のあり方について研修を行った。松本市クラインガルテン事業は山間地の旧四賀村で取り組まれた事業で、その背景として、養蚕業の衰退に伴う遊休農地の増加と、過疎化や農業者の高齢化による農地の管理不足がある。

遊休農地の有効利用と地域の活性化を図ることを目的として設置された。本事業は田舎暮らしを簡単に体験できる施設としての性格が強い。都市住民を一時的でも居住させる本事業は、地域活性の一方策として有効な手段ではあるが、本市での導入検討にあたっては、地域経済の活性化方策を含めて、十分に検討する必要がある。

小諸市街なみ環境整備事業については、旧北国街道小諸宿周辺に残る商家や宿場など歴史的街並みの景観を活かした建物美観の修復等住民自らの発想による街の賑わいを創出することを目的としている。小諸市は、市制施行や人口規模等、また旧宿場町であったという点など本市と類似した自治体である。特に地域住民独自による「まちづくり協議会」の設置や、その活動内容は、今後本市が取り組もうとする地域づくりに大いに参考となる内容であった。

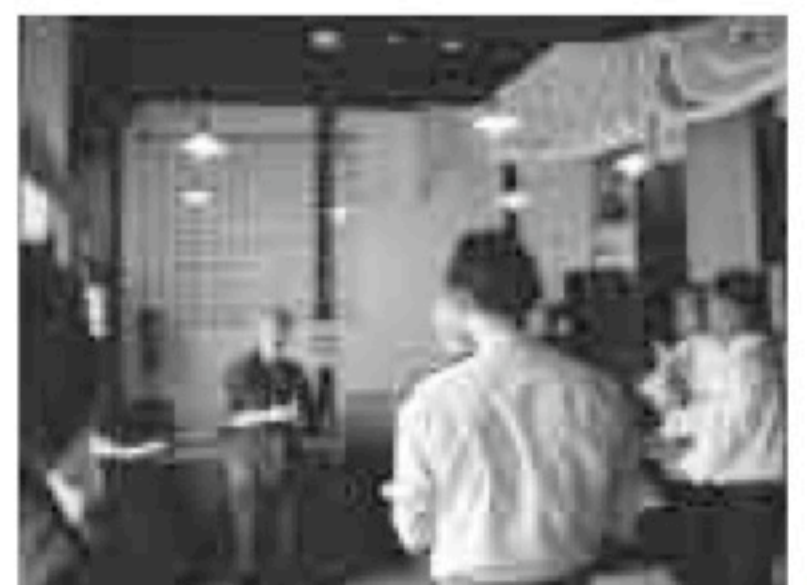
研修レポート



研修風景 (南陽市)



研修風景 (山形市)



研修風景 (小諸市)